

東急車輛製造株式会社 殿

第 号
平成 年 月 日

改造自動車等審査結果通知書

指示事項:

主要諸元比較表 (改造、(試作)組立)

届出者の氏名又は名称				東急車輛製造株式会社				種別用途		大型特殊	
項目	標準車	改造車	基準	項目	標準車	改造車	基準				
車両重量 kg		5200	—	車名		東急	—				
乗車定員人	4	—	—	型式		TP150-31	—				
最大積載量 kg	9250	13750	—	形状		ボルトトレーラ	—				
車両総重量 kg	28200	18950	≦ 20 t	原動機の型式		—	—				
長さ m	5.120	5.120	≦ 12	総排気量 l		—	—				
幅 m	2.490	2.490	≦ 2.5	燃料の種類		—	—				
高さ m	1.600	1.600	≦ 3.8	軸距 m		1.300	—				
室内又は荷台の内側の寸法 m				最小回転半径 m		※ 15.6	≦ 12				
長さ	0.800	0.800	—	オーバハングホデー後端まで m		0.850	≦ ホ・結・子 L				
幅	2.490	2.490	—	荷台オフセット m		0	—				
高さ	—	—	—	タイヤ前		—	—				
空車時	3.80	3.80	—	サイズ後		10.00-20-14R	—				
荷重分布 kg	—	4820	—	積車時前		—	—				
積車時前	3.80	3.80	≦ 10 t	タイヤ		—	—				
荷重分布 kg	—	—	()	荷重割合 %		—	≦ 100				
積車時後	—	18570	≦ 10 t	最大安定傾斜角度 °		2104/1600 = 1.3/1.3	一般 ≧ 35 (30)				
積載時前輪荷重割合 %	—	—	≧ 18/20	車わく強度		$\frac{98/10}{8/10} = \frac{4100/99 \times 2.5}{2500/99 \times 2.5} = \frac{16.5}{17.1} > 1.6$	—				
輪距 m	—	1.780	—	車軸強度		東急 TL 2555 型トレーラと同一	—				
前	—	—	—	操縦装置		—	—				
後	—	—	—	懸架装置		東急 TF 2524 型トレーラと同一	—				
	—	—	—	制動装置		東急 TL 2555 型トレーラと同一	—				
	—	—	—	連結装置		" = 7000/831 \times 2.5 = 3.3 "	—				
能力強度等検討				制動能		踏力 - kg 50 km/h/0.2 m	—				
				空気圧		7 kg/cm ²	—				
				回転数		Nc/N= / =	—				
				強度		σ _B /τ= / =	—				

注1. 主要諸元比較表右肩()内の改造、試作、組立は該当するものを○で囲むこと。
注2. 能力強度等検討欄に必要なものは一、省略したものは×を記入すること。

※印はU-FV411PP改型トラクターと連結時の計算値を示す

試作
改造概要説明書

目的	長尺物の運搬用トレーラとして新たに製作したもの
車体	フレーム上面にターンテーブルを架装する。
軸距	1300 mm とした。
輪距	1780 mm とした
原動機	
動力伝達装置	
走行装置	東急 TL 2555 型セミトレーラ (SS 自車第 743 号新型自動車第 10999 号) と同一のものを使用している。
操縦装置	
制動装置	東急 TL 2555 型セミトレーラ (SS 自車第 743 号新型自動車第 10999 号) と同一のものを使用している。トラクタとトレーラが分離した時制動のかかる非常中継弁を取付けている
懸架装置	東急 TF 2524 型セミトレーラ (SS 自車第 743 号新型自動車第 11055 号) と同一のものを使用している。半だ円重ね板ばねを使用している
連結装置	けん引車のピントルフックとボルトトレーラのドロバ先端のルネットアイとで連結する。
車わく	主要材料は、メインレールはH型钢、クロスメンバーにはI型アルミ板を使用し電気溶接にて枠組されたもので全体の構造は格子型である。
その他	1. ターンテーブルロック装置の表示灯の配線をしている。 2. ルネットアイ中心からターンテーブル中心までの距離 1346.0 mm (三菱 U-FV411PP 改と連結時 10.479 mm) 3. 当該車輛の突入防止装置は届出済の1QAを取付けた。

(A列3番)

(社団法人 日本自動車車体工業会)

